

### 地震を想定した行動をシミュレーションしておく



福永 健一さん (勝賀野)

「突然、ズンッと突き上げられたかと思うと、下に落とされた感じだった」。そう当時を振り返るのは、兵庫県西宮市で「阪神・淡路大震災」を経験した福永健一さん。咄嗟に妻が当時小学生だった2人の娘の上に覆いかぶさり、その上に倒れ掛かりそうになったタンスを、健一さんが手で押さえ続けたといいます。マンションの3階にあった自宅のドアは歪んで開かなかったため、窓から隣の建物の屋根へと順番に飛び移って避難した福永さん。「あの時、咄嗟の行動ができたのは、私たちは常に地震が来た時の行動をシミュレーションしていたからなんですよ」と、最後に語ってくれました。

我が家の備え 各部屋へ懐中電灯を常備！

### ドアを叩き壊して、何とか外に出た



橋本 文男さん (木屋ヶ内)

「トラックが突っ込んだかと思ったほどの音と震動で飛び起きた」と話すのは、当時、兵庫県尼崎市で「阪神・淡路大震災」を経験した橋本さん。ブラウン管のテレビが2~3m飛び、洋服ダンスも倒れ、家の玄関ドアは捻じれて開かなかったため、近くにあった折りたたみイスでドアを叩き壊して、必死で外に出た橋本さん。「その時、足の裏がベトベトすることに気が付いたんです。慌てて裸足で出てきたせいで、足の裏が血だらけになっていたことを覚えています。あれほど、自然の恐ろしさを感じたことはないですね」と話してくれました。

我が家の備え 自宅の耐震補強！

### 馴染みある景色がなくなった



栗原 あゆみさん (広瀬)

小学生の時に、兵庫県神戸市で「阪神・淡路大震災」を経験。「私に覆いかぶさってくれた母の背中にタンスが倒れてきたんです。父もピアノに挟まれていたけど、何とか私たちを助け出してくれました」。それから、16年後、社会人となった栗原さんは、東京都港区で「東日本大震災」を経験。普段は私鉄で約10分の道のりを、2時間かけて歩いて帰宅したといいます。「大きな災害によって、馴染みある景色がなくなった。それくらい悲惨なものなんです」と話してくれました。

我が家の備え ベッドの下に靴！

### 補助制度 四万十町耐震化補助事業

対象住宅 昭和56年5月31日以前に建てられた木造住宅が対象になります。

木造住宅 耐震診断	木造住宅 耐震設計	木造住宅 耐震改修工事
自己負担 3千円	補助上限 22万円	補助上限 150万円

申請手続き案内



耐震補助啓発動画



お問い合わせ先/建設課 22-3120

### 津波から逃げるために 古谷 健三さん (志和)



「南海トラフ地震が発生した場合、志和地区では、大きな揺れの後、15~20分で津波に襲われるんです」。そう話すのは、昨年度、自宅を耐震補強した古谷健三さん。「沿岸部の場合、住居の耐震化を行っても、津波で家ごと流されてしまうのではと思う方もいるかもしれませんが、それは違います。私は、この家を守るためじゃなくて、揺れの後に来る津波から、いち早く逃げるために耐震化をしたんですよ」。古谷さんにそう思わせせたのが、今から13年前の東日本大震災の津波。あのすさまじい津波の威力をテレビで見たとき、これはすぐに家から出られない限り、絶対に助からないと思ったそうです。「だからこそ、自宅を耐震補強し、倒壊する時間を少しでも稼いで、その間に外に逃げ出すしかないんです。怪我無く、家の外に出られてこそ、津波からの避難を始められるんですよ」と真剣に語ってくれました。

家の外に出るまでの、時間稼ぎに過ぎない

### リフォームに併せて 岡峯 由希子さん (広瀬)



義理の両親が所有していた住居に住んでいる岡峯さん。築年数が古く、瓦屋根だったこともあり、大きな地震が発生したら、絶対に屋根が潰れてしまうんじゃないかと、ずっと不安だったそうです。「5~6年前から、耐震補強を兼ねたリフォームを検討していて、やっと昨年度、工事をする事ができました。以前は襖などの建具で部屋が仕切られていたんですけど、新たに補強壁や筋交いが入って、住居の耐力が向上したそうなんです」と話してくれました。今年4月に県西部を襲った地震の際にも、耐震工事を行っていたことで、「全く安心感が違ったんです。もし、耐震化をしていなかったら、あの揺れでもどうなっていたか分からないです」。工事の実施に当たっては、「町の耐震化補助制度を活用できたので、本当に助かりました。今、子どもたちと安心して生活ができていますのも、耐震補強をしたおかげです」と話してくれました。

築年数が古くても、安心感が違う

### 築100年の家を耐震化 武内 祥一さん (大正大奈路)



築100年以上だという自宅は、昭和の南海地震により少し傾いていたそうで、「今度、南海トラフ地震が来たら完全に崩れると思っていました」。そう語るのは、屋根の雨漏り改修と併せて耐震補強を行った武内さん。瓦屋根をガルバリウム鋼板に改修し、壁も補強したことで、思っていた以上に工事費は高くなったそうですが、「少しは安心できるようになったよ」と笑ってお話してくれました。長年、区長を務めていた経験から、町の補助制度については知っていた武内さん。「今は仕事や農作業で、家を出ることも多いが、これから先、歳を重ねるにつれ、家にいる時間は長くなる。そうなってくると、家で被災する可能性が高くなるから、多少、工事費用の負担があったとしても、家の耐震化はやっておこうと思っていたんです」と語ってくれました。

これから先、家にいる時間が長くなるから

